

りゅーとぴあ音楽アーツ・マネジメント研修2021

～～公共ホールは【総合力】が大事！？～～

- 1 対象 ○大学生
○公共ホール・劇場において、業務経験年数が5年未満の職員
- 2 目的 ○公共ホール・劇場の歴史的過程を把握し、現在の状況(成果・課題)を生んでいる原因を考える。また、公共ホール・劇場に求められている役割の変遷と、それに対してどのようなアプローチ・工夫が実際に行われているのかを学ぶ。
○公共ホール・劇場が提供するサービスのさまざまな側面を学び、その現場で働いている人が実際に何を感じ、何を考えているのかを知る。
○自主企画がどのように立ち上がり、どのように実施されるのかを知る。また、ホール機能と地域とのマッチング、可能性について考える。
- 3 開催期日 2021年8月24日(火)～27日(金)
開始:24日(火)午後2時00分 終了:27日(金)午後4時00分
- 4 開催場所 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館
- 5 参加費用 ○大学生:無料
○社会人:10,000円
※参加費以外の経費(交通費・宿泊費・食費等)は個人負担となります。
- 6 定員 8人程度
- 7 参加者募集期間 2021年4月1日(木)～6月30日(水) ※ただし、定員に達した段階で締め切ります。
- 8 申込方法 次の事項をメール送信してください。7日以内に返信がない場合は、お問い合わせください。
①氏名
②住所
③電話番号
④メールアドレス(スマホ・PC)
⑤学生の場合は学校名・学科・コース・年次
社会人の場合は職場名称・業務内容・経験年数
⑥自分以外の緊急連絡先
⑦どうしてこの研修に参加しようと思ったか、その理由
⑧この研修で何を知りたいか
- 9 申込先 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 事業企画部 音楽企画課 榎本広樹
h-enomoto@ryutopia.or.jp
- 10 カリキュラム内容 ①公共ホール概論 歴史と社会的役割の変化をたどったあと、活発な運営がなかなか実現しない原因を探ります。
②りゅーとぴあ概論 りゅーとぴあの施設機能、やってきたことを「公共ホール概論」で触れた点と対比して考えます。
③公共ホール、現場の声 一口に公共ホールと言っても、その中の実務、提供すべき社会サービスは多岐にわたります。それぞれのサービス提供の現場を担っている人から、生の声を聞きます。
④新しい時代のPR 時代が変わる中で、単なる「発信」に終わらないPR手法について考えます。
⑤現場で考える、「企画する」ということ 公共ホールにおける「企画」について考えます。

※開催期間内の詳細スケジュールは、お申込みの方にお知らせします。

- 11 問い合わせ先 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 事業企画部 音楽企画課 榎本広樹
h-enomoto@ryutopia.or.jp
電話:025-224-5614 FAX:025-224-5626
〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3番地2(白山公園内)

①「新潟市」と「リゅーとぴあ」を知ることで、「地域」と「公共ホール」の関係が見えてくる！

3つの専門ホール(コンサートホール・劇場・能楽堂)の集合体であるリゅーとぴあ。リゅーとぴあがなぜ誕生したのかを紐解いていくと、我が国の公共ホールの歴史的变化を踏まえた一つの結果であることがわかります。

また、リゅーとぴあの現在の運営からは、施設面だけでなくソフト面や組織の部分でもさまざまな工夫が発見できます。

そしてそれらが、『新潟市』という本州日本海側唯一の政令指定都市において、どのような活動を行ない、どんな成果を上げているか(あるいは課題を持ち続けているか)を知ることで、公共ホール全体、地域のホールを理解していく多角的な視点を獲得することができます。ありていに言うと、リゅーとぴあを通じて【公共ホールの現場の実態をご覧あれ】、ということなのです。

②公共ホールのさまざまな側面を知ることで、公共ホールのミッションと可能性が立体的に見えてくる！

公共ホールは、単なる静的な建物ではありません。実は、日常的にさまざまな文化的・社会的サービスを提供している「文化機関」です。

その多面的なサービスの現場で働いている人が何を考え、何を目指し、どんなサービスを提供しているのか、そして何を感じているのかを直接聞いてみましょう。

そうすることで、立体的で具体的な【公共ホールのあり方・ミッションとその可能性】が見えてくることでしょう。

③チケットセールス作戦の前に、公共ホールは「共感」を得る場所ではなくちゃ。

時代が大きく変わっていく中で、最適なPR手法も変わっていきます。必要な人に必要な情報を伝え、行動を促していくには、今、何が大切なのでしょう。今後、どんなことを視野に入れながら作戦を立てて行ったら良いのでしょうか。そのことを考えると、実はお客様の「チケットを買う」という行動の前に、満たされなければならない条件があり、その条件達成のために行うべき作戦があります。キーワードは【共感】です。

ここでは、目先のチケットセールスのために何をすべきか、と同時に、それ以前に行うべき作戦について、リゅーとぴあの実践も踏まえて考えてみましょう。

④新潟の美味しいものを食べることで、地方の魅力が見えてくる！

日本海に面した新潟市は海の幸に恵まれ、また広大な新潟平野ではおいしい米と多様な味わいを楽しむことができる日本酒など、多くの特産品があります。もちろんそれを楽しんでほしいのですが、そこから「地域の魅力」というものに、思いを馳せてください。

新潟の魅力を知ることで、皆さんのふるさとや今後赴かれる地域の魅力を発見する「視力」を養っていただく。それはきっとこの先、皆様はどこで仕事をすることになっても、皆様の武器になる、と考えています。

と言いつつ、実際には、「新潟にいる間にどうぞたくさん美味しいものを召し上がってください」ということです。

参加者の声(2020年度研修、終了後の参加者アンケートから)

この4日間の研修で心に決めたことがあります。それは、将来アートマネジメントの世界で活躍すること・リゅーとぴあのような素敵な職場で働く(素敵な職場にする)ことです。

今回様々な部署の方とお話する機会があったことが非常によかったです。どの部署の方もそれぞれの仕事に誇りを持ち「手前味噌」を乱発しつつも(とっても好きです)、「まだまだこれから」をしっかりと考えていらっやいました。職員の方の自信・自負と反省・意欲が相乗効果を生み出し、職場が非常に活き活きとしていると感じました。だからこそ音楽教室の子供たちやアーティスト、お客様などを惹きつけ、成長させるのだと感じました。

素敵な仲間と出会えたことも大きな収穫でした。三者三様の参加者がお互いに良い刺激を与え合い、想いを共有し共に考えることができました。

(大学3年)

振り返ると、休憩の10分でさえ足りないほど内容が凝縮された研修に、再び新潟に研修を受けに行きたい気持ちで胸が一杯です。帰宅してから濃い4日間をもう一度頭の中で咀嚼しているのですが、既にこれからチャレンジしてみたい事が次々に出てきます。

施設の広さ・お金の面・スタッフの人数など、そういう面で「リゅーとぴあだから出来る事」と捉える人は多いかもしれませんが、しかしそうではなく、4日間色んな人のお話を聞くと、リゅーとぴあという場所で、個人個人の「挑戦心」が圧倒的に強く高く、また良いチームワークこそが、自主事業を通じて地域の繋がりや活性化や、ホールを訪れるアーティストが次も来館したいと思わせる理由なのだと感じました。

今回学んだ事を生かし、その土地その時に何が出来るのか、私がこれからやりたい事、それを実現するための調査やとにかく行動してみる事、それが次へ次へと繋がるようにしっかりと考えていきたいです。

(公共ホールスタッフ)